

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年04月15日

計画の名称	広島県における流域下水道事業の推進（重点計画）												
計画の期間	平成31年度～令和04年度（4年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	広島県												
計画の目標	<p>太田川、芦田川及び沼田川は、それぞれ本県を代表する河川であり、生活用水をはじめ、工業用水、農業用水として重要な水源となっている。また、瀬戸内海も本県の経済を支えるとともに、県民の貴重な憩いの場となっている。一方、各河川の流域は、都市化が伸展しており、公共用水域の汚濁が進行してきた。近年は、改善傾向にあるものの、引き続き水質の改善が求められる状況である。このため、太田川、芦田川及び沼田川の各流域下水道事業により、広域的なスケールメリットを働かせ、健全な水環境の回復を図る。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	3,850	A	3,850	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H31当初	R02末	R04末
1	・各流域の市街地部から発生する汚水を浄化し、公共用水域へ排出される汚濁物質を削除する。（H31当初 95.4% R4末 100%） 各流域下水道の終末処理場で、流入汚水を処理して汚濁物質（BODで表示）を除去する量。 最終目標に対する1年間で除去する汚濁物質（BODで表示）の量の割合（%）＝【流入水質BOD－放流水質BOD】×年間処理下水量（t）／最終目標除去量（t）	95%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	広島県	直接	広島県	-	-	太田川流域下水道 調査 ・設計	広域化調査・検討	広島市・府中町 ・海田町・坂町 ・熊野町						10		-
	A07-002	下水道	一般	広島県	直接	広島県	-	-	芦田川流域下水道 調査 ・設計	広域化調査・検討	福山市・府中市						10		-
	A07-003	下水道	一般	広島県	直接	広島県	終末処 理場	新設	芦田川流域下水道 芦田 川浄化センター	水処理施設(11,200m3/日)	福山市						690		-
	A07-004	下水道	一般	広島県	直接	広島県	終末処 理場	新設	沼田川流域下水道 調査 ・設計	新設整備調査・設計	三原市・東広島 市						40		-
	A07-005	下水道	一般	広島県	直接	広島県	終末処 理場	新設	沼田川流域下水道 沼田 川浄化センター	処理場:水処理施設(11,000 m3/日)等,流域下水道:MP 所等	三原市						3,070		-
	A07-006	下水道	一般	広島県	直接	広島県	-	-	沼田川流域下水道 調査 ・設計	広域化調査・検討	三原市,東広島						30		-

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

広島県上下水道部流域下水道課において評価を実施

事後評価の実施時期

2024年（令和6年）4月

公表の方法

広島県のホームページで公表

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

水処理施設の増設や老朽化した下水施設の更新を行うことにより安定的な汚濁物質の除去を行うことができ、県民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全につながった。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

特記事項（今後の方針等）

引き続き持続的な汚水処理を実施するため、計画的な施設更新や施設整備の最適化を図り、より効率的・効果的な下水道整備を行う。

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	100%
	最終実績値	95%
		R4年度は終末処理場への流入汚水量が減少したことによる。